資料2

第３回調査検討部会の論点（モニタリングの方法等）

番号	区分	細区分	第３回調査検討部会（5月１5日）での議論	対応の方向性
1	モニタリング	手法	モニタリングのやり方として全県的に行うという考え方の他に、もう少しミクロ的なところをピックアップして行う考えもある。	ミクロな部分のモニタリングについては、今後モニタリングや計画評価を実際に行っていく中で必要性等を検討し判断していきたい。
2	モニタリング	手法	全体のモニタリングの重要性はあるが、ゾーンごとのモニタリングがないと意味をなさない。	ゾーンごとのモニタリングについては、本日方向性を協議したいと考えている。
3	モニタリング	手法	取組の具体的内容はどのようなものがあるのか。補助金やシンポジウムの開催、キャンペーンの実施など、どういう手法があるのか検討してもらえるとよい。	具体的な取組については各課で実施しているが、計画評価を実施する段階においては、そのような内容も踏まえて評価を実施していきたい。
4	モニタリング	手法	農地について、全体ではなく、もう少し掘り下げて農地の利用面積（市街化、市街化調整区域、都市計画外）を見ていくことも必要ではないか。	計画評価を実施する段階で課題に応じて対応していきたい。
5	モニタリング	表示方法	モニタリング・評価シートの４の表の中の「解決策」は「取組」とした方がポジティブな感じがしてよいのではないか。	「解決策」の表示を「取組」に変更した。
6	モニタリング	表示方法	モニタリング・評価シートについてもう少し丁寧に書いた方がよいのでは。この指標を使うとこういうことができるというように取組と指標の間にストーリーを書くのがよいのでは。	モニタリング総括表等の中に施策の実行により、向かうべき指標の増減について矢印の表示を加えた。また、指標の持つ意味合い等はデータシートの指標の概要欄に記載しているが、記述内容が不十分な点等については修正を加えた。
7	モニタリング	表示方法	解決策の検証として、それぞれの指標がどうなればよいのか、多い方がよいのか、少ない方がよいのか、そもそも指標がどういう意味を持っているのかを記載する必要がある。	６に記載したとおり、モニタリング総括表等の中に施策の実行により、向かうべき指標の増減について矢印で表示した。
8	モニタリング	表示方法	「危険な範囲」や「概ね大丈夫」といった範囲が健康診断の数値範囲のイメージで出せると県民にもわかりやすいのでは。	一般の指標について数値で明確に示すのは難しいが、規模の目標については、データシートに基準値、目標値を加え、現在の状態が視覚的に判断できるように修正した。
9	モニタリング	表示方法	突発的な出来事ではないが、土地利用に関しても大きな変化を起こすような特記事項を記入する欄があるとよい。	モニタリングを実施していく中で特別な要因があれば、データシートの「モニタリング結果欄」に記載していく。
10	モニタリング	表示方法	農地のほ場整備面積は、単年度か累計かわかるようにしてほしい。	農地のほ場整備に限らず、データシートの中で単年度の数値か、累計の数値かがわかるように表示した。
11	モニタリング	表示方法	農地の中に市民農園があるが、全体の農地面積に占めるウエイト付けも記載してあるとよい。	データシートの中にウエイト付けについて記述を加えた。
12	計画評価	手法	評価の仕方はテーマ別に＋＋、－－などと評価してはどうか。	計画評価の詳細な実施方法については、今後検討していく。